



碧南ロータリークラブ週報

第2812回例会 平成29年2月8日(水)

- 会長 榊原 健
- 幹事 新美 惣英
- 会場監督(SAA) 黒田 泰弘

2016-2017 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp



- 会報委員 杉浦秀延・貝田隆彦・梶川光宏

●斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

きぼう新聞 編集長 細川健一様

●本日の卓上花

スイートピー、フリージア

会 長 挨拶

皆さん、こんにちは。先週1週間、職業奉仕活動ご苦労様でございました。先週のクイズの答えですけども、タンスは一棹(さお)、二棹と数えます。昔のタンスには持ち運びする時のために金具が取り付けられており、その金具に棹を通して2人で担いで運んでいたことが由来だそうです。



榊原 健会長

今、日本は車とか家電製品とかIT関連などの色々な物を輸出しております。その中に注目を浴びていない輸出物があります。それは料理用の刃物、いわゆる包丁です。その額が21世紀の初めの頃は20億円程度だったそうです。その後、どんどん増えていきまして、2008年には60億円までになったそうです。リーマンショックや東日本大震災で一時期下がったのですけども、2013年には復活しまして、また60億円になりました。2014年には70億円近くに上がりました。2015年の統計ですと、もっと増えるだろうと言われております。隠れた輸出物ということで、数多くの包丁が海外へ行っております。その理由は何だろうというふうに考えてみますと、やっぱり品物というのはその製品が良くなくてはなりません。非常に切

れ味が鋭く、よく切れる。切れた物を食べても美味しい。よく切れた物を食べると美味しい。というようなことが言われております。幸いなことに和食が世界文化遺産に登録されて、数多くの日本の料理人の方が海外で日本の包丁を使って料理を提供し、それを見た人や食べた人が凄いなと感じたそうです。料理人だけではなくて、日本に訪れた観光客の中でもわざわざ日本で包丁を買って行かれるそうです。小さな物が大きな額を生むのだなと思いました。

日本はどうして切れ味の良い包丁が作れるのかということ、日本は鉄、海外はステンレスで作っています。日本が鉄で作るといのは、武士の刀を作る技術が包丁にも活かされているのではないかと言われております。良い包丁を作ってもそれを研ぐ物がないといけないということで、日本には凄く良い砥石が出るのだそうです。そのおかげでさらに切れ味鋭い物ができているというふうに思われております。

最近の日本は、匠と呼ばれる方たちが減って参りました。まだ残していきたい文化はいっぱいあると思いますので、是非皆さん方もそのような方たちをバックアップして頂けたらと思っております。

それでは本日のクイズです。タンスは一棹、二棹と数えますけれども、ウサギはどのように数えるでしょうか。

どうぞよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- 皆様のお手元に緑化整備事業のご案内があると思います。3月22日の14時に旧名鉄柵尾駅で植樹式を開催させていただきます。これは補助金事業でございますので、多くの方にご出席頂いて報告をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。
- 次年度の編成表ということで、皆様のお手元の資料をご確認して頂きますよう、お願い申し上げます。
- NPO 法人国際ロータリー日本青少年交換委員会を新たな法人化とする承認のお願いということで、碧南としては青少年交換事業をやっておりませんが、法人化することへの理解ということで原案通り承認させていただきました。
- 2020年に日本ロータリーが100周年を迎えるということで、100周年委員会を運営することと、ご協力を各クラブにお願いするということで1人200円を納入させていただきますので、よろしくお願い致します。
- 2月25日の土曜日に西三河分区IMが執り行われます。これは全員登録でございますが、33名の方に出席のご返事を頂いておりますので、その方には場所や時間等のご案内をさせていただきます。懇親会につきましては、例年は立食形式でしたが、今年度は10名に限り席を用意されているということですので、ご理解をお願い申し上げます。



新美惣英幹事

委員会報告

<出席奨励委員会>

| | |
|---|---------------|
| 総会員数 69 名 (内出席免除者 17 名の内出席者 10 名)出席者 51 名 | |
| 出席対象者 51/62 名 | 出席率 82.26% |
| 欠席者 18 名(病欠者 0 名) | 前々回修正出席率 100% |

※十週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

木村 徳雄君 私のスキーシーズンは、そろそろ終わりです。昨日から左脇が痛くて遊びすぎかなと思ってました。腎臓石が腰まで落ちてます。石ほしい人は言って下さい。プレゼントします。

服部 弘史君 本日の講師、きぼう新聞 編集長 細川健一様を御紹介致します。細川さんよろしくお願ひ致します。

鈴木 泰博君 } 黒田昌司様、2月3日は大変お世話になりました。ありがとうございます
一柳 成君 } た。

卓 話

「父子の絆」

きぼう新聞 編集長 細川健一様



細川健一様

皆さん、よろしくお願ひします。ご紹介に与りましたきぼう新聞 編集長の細川健一と申します。皆さんのお手元に1部ずつ

ですけれども、過去に発行致しましたきぼう新聞をプレゼントさせて頂きました。今日は創刊からずっと応援して頂いております石川鋼逸さんからご縁を頂きまして、この場に立たせて頂いております。全てのきっかけは野球でして、34歳になりますが碧南の連盟に所属をさせて頂いており、石川鑄造さんで野球をやらせて頂いております。

では、短い時間ですけれども、「父子の絆」ということで話をさせて頂きたいと思います。私のプロフィールを語る上では、野球の話がウエイトを占めるのですが、何で今きぼう新聞というものをやっているかという、祖父と父が富山県で新聞販売店を50年営んでいた家系の三代目として生まれたのがきっかけです。全く新聞にはゆかりが無かったのですが、31歳ぐらいの時にとあるきっかけがありまして、新聞を作る側に興味を持って続けているという感じです。

生い立ちに沿って話をさせて頂きます。最初にこのような講演をさせて頂く時に必ずお話しているのが、「いじめ」というものです。高校3年の夏に富山商業のサードで甲子園に出ることができました。これは良い思い出というよりも正直その3年間に戻りたいとは一切思っ

ていなくて、その原因が1年～3年までずっと仲間がいなかったということです。1年生の時に3年生に可愛がられて、監督にさえ気に入ってもらえればレギュラーになれるという感覚で野球をやっていたので、同級生から妬まれました。今、テレビやネットでも同じようなものがよく出ていますが、ボコボコに殴られている側の少年が私でした。これが「父子の絆」の1つ目になるのですが、保育園の時に祖父がぼそっと呟いた「健一が甲子園に出るまでわしら死ねんの」という言葉がフィードバックしてきて、自殺を思いとどまることができました。これがいじめの話の1つのポイントになっています。同級生にいじめられていましたが、同級生を何とか見返そうという気持ちと、祖父に甲子園に出ている姿を見せたいという思いで必死に3年間やったという高校時代でした。

きぼう新聞を作るきっかけになっている1番大きなことは、宮崎県にある「みやざき中央新聞」を見たことです。みやざき中央新聞に出合った時に真似させてほしいと思い、生い立ちを長々と書いたメールをみやざき中央新聞のインフォ宛に送らせて頂きました。文章の内容は大変失礼なものでしたが、是非宮崎県にお越しく下さいとの返事を頂きました。そして宮崎県に足を運び、みやざき中央新聞の社長と編集長の所で真似させてほしいですと話をしましたら、一緒になってやろうというようなことを言って頂いて、スタートを切った形です。

祖父の話を知りたいと思っているのですが、その1つに私の父から聞いた祖父の生き様があります。祖父は80歳ぐらいで亡くなったのですが、葬式に200人近くの方が来てくださって、私は全く知らない方たちでした。新聞の読者の方々が来ていたらしいのですが、その方々からあなたのおじいちゃんの笑顔が好きだとかそういう話ばかりを聞かせてもらいました。深く聞いていくと、朝新聞配達が終わると午前中は寝ます。昼からは自転車を漕ぎながら読者の方の家に行って2時間ぐらい喋って帰ってくるそうです。祖父は何を大事にしていたかと言いますと、一度つながった縁は広げるものではなく、深めるものということでした。これをきぼう新聞でも大事にしながらやってきているつもりです。

丁度先週できぼう新聞は3年経ちますけども、決して順風満帆ではありません。1部1,000円でやっておりますので、読者がいなければ成り立ちません。その中で不安になることがたくさんあります。3年にもなると解約される方も増えてきます。これはどんな新聞でもそうだと思います。でも1人解約が増えるたびに不安に駆られます。その不安に駆られた時に、父に不安になったらどうしたらいいかというメールを送りました。その時に返ってきたのが、「原点に還りなさい」ということと「たった1人のために書きなさい」ということでした。これを意識するだけで不安が減っていきます。

色々話をさせて頂きましたが、野球から始まり、税理士法人の時代があって、それから住宅メーカーに転職をし、きぼう新聞を創刊という人生で、全てがつながっていると思っています。目に見えない価値（思い）をカタチにし、たったひとりを思い浮かべて、100年後の人が喜ぶ文書を書き続けていくことが今の私の使命なのかなと思っています。

皆さんのお手元にあるきぼう新聞の編集長の名前と私の名前が違いますが、これは祖父と父の名前の1文字ずつ頂いて細川友茂というペンネームできぼう新聞を作らせて頂いています。

皆さん、真剣に聞いて頂いてありがとうございました。

次回例会案内

平成29年2月22日（水）は25日の振替休会

平成29年2月25日（土）13：30～ 西三河分区I.M

会場：リリオコンサートホール・ホテルクラウンパレス知立

平成29年3月1日（水）クラブフォーラム

地区社会奉仕委員会